竹田温泉「花水月」運営管理資料

I これまでの経過

1. 竹田温泉「花水月」の建設

温泉湧出により、急展開で温泉を利用した温泉館建設の方向が確定的となり、平成12年4月にNEDOに対し、「坑井使用承認願」を申請、同年5月に使用承認を得た。花水月建設については、平成13年1月24日に起工、同年11月1日に温泉施設と飲食部門（レストラン）の2つの機能を持つ施設としてオープンした。

【施設規模】 敷地面積：2,900㎡、建築面積：1,297㎡
延床面積：2,046㎡（1階 1,099㎡、2階 947㎡）
構造：RC造 2階建

【施設本体事業費】総事業費：803百万円（うち設計等委託料38百万円）
財源内訳：過疎債629百万円 一般財源174百万円

なお、NEDOから無償で使用承認を受けていた坑井は、平成21年11月に無償譲渡の協議が整い、竹田市所有となっている。

2. 運営組織

○平成13年11月～平成18年3月…第3セクター「竹田振興整備株式会社」

○平成18年4月～平成22年3月……竹田市直営（担当課：企画情報課）

○平成22年4月～現在…… ……………竹田市直営（担当課：商工観光課）

平成22年4月から、花水月は温泉施設を主軸としながらも、行政機能及び城下町における観光・物産の拠点機能、これに健康増進のソフト事業を絡めた公共施設として再スタートを切った。この施設形態に至り、単に収益事業の施設ではなくなったという観点から、予算の計上は特別会計より一般会計に移行することとなった。また、行政機能の窓口を持たせるため、商工観光課が主管担当課として施設の一角に入り、商工観光課長が花水月館長を兼務している。

また、この間、平成28年4月に熊本大分地震が発生、これに起因して温泉の掲泉量が毎分74ℓ、湯温が39℃と減少、低下した。現在の掲泉量は毎分70ℓで、花水月のオープン当初の毎分200ℓから比べると、掲泉量は1/3に下がっている。

令和3年度

- 地下湯量調査 毎分300ℓ汲み上げても十分な湯量はある。
- ※動力使用 毎分50ℓまでしか汲み上げられないので、現状の自噴70ℓしかない。
- ※代替掘削 地質が花崗岩で非常に硬く、一般の小規模業者では掘削できない。
NEDOだから掘削出来た。仮に再度掘削してもらっても1億以上の事業費がかかり、同量の湯量は確約できないので現実的ではない。

令和4年度

■ボイラー調査 モニタリング調査実施

◇竹田温泉花水月運営の現状

近年では、施設本体の損耗が進んでおり、これに要する修繕料が嵩んでいる。また、空調設備、温泉設備、駐車場舗装の更新時期（設備関係の更新は15年程度）はとうに過ぎており、これらの維持に要する修繕料も年々増加してきている。

■時短営業による経費節減

令和5年11月1日より閉館時間を30分短縮

■入浴料の改定（値上げ）

令和7年8月1日より入浴料の改定

区 分		変更後	変更前
		料金（円）	料金（円）
大人	市内	500	350
大人（70歳以上または身障者）	市内	400	
大人	市外会員	500	350
大人	市外	600	500
子ども（6歳～小学生）	市内+市外	300	200
家族風呂	市内+市外	2,200	2,000
回数券 13枚	市内+会員	5,000	3,500
回数券 25枚	市内+会員	9,000	7,000
回数券 50枚	市内+会員	16,000	10,500
回数券 6枚	市外		2,000
回数券 10枚	市外		3,000
回数券 15枚	市外		5,000

「身障者」とは、身体障害者福祉法施行規則（昭和25年厚生省令第15号）別表第5号に定める3級以上の身体障害者をいう。